

vol.02 受療実態～患者はどのタイミングで受診する？

QLife は 2016 年春の花粉症シーズンに医療機関を受診した花粉症患者 1,000 人を対象に大規模調査を実施。シリーズ第 2 回は「受療実態」について紹介する。

調査結果では、花粉症患者に症状が出た期間は全国平均で 2.3 か月だった。東海と九州は 2.4 か月、関東南部と近畿は 2.3 か月、北海道は 1.3 か月。しかし、花粉症患者にとって、必ずしも「症状が出たとき」＝「受診するとき」ではない。では、患者はどのようなタイミングで医療機関を受診しているのだろうか。

北海道など 3 地域は受診遅め、甲信と東海は飛散開始前に半数が受診済み

調査では、地域別に 2016 年春シーズン 1 回目の受診時期ならびに患者の半数以上が 1 回目の受診を済ませた時期を調べた。その結果、3 月 18 日に飛散開始した北海道では、半数以上の受診が済むのは「4 月上旬」と、少なくとも 10 日強のギャップが生じていることがわかった。関東南部でも 1 月 19 日の飛散開始に対して過半数受診が「2 月上旬」、東北北部では 3 月 5 日の飛散開始に対して過半数受診が「3 月中旬」とギャップがあった。

一方、甲信地域では、2 月 14 日の飛散開始に対し、半数の患者が「2 月上旬」にはすでに受診を済ませていた。東海地域も 2 月 13 日の飛散開始に対して「2 月上旬」には済ませていた。飛散開始と同時期に過半数の患者が受診を済ませているのは東北南部、関東北部、北陸、近畿、中国、四国、九州の 7 地域で、西日本では受診が早い傾向にあった。

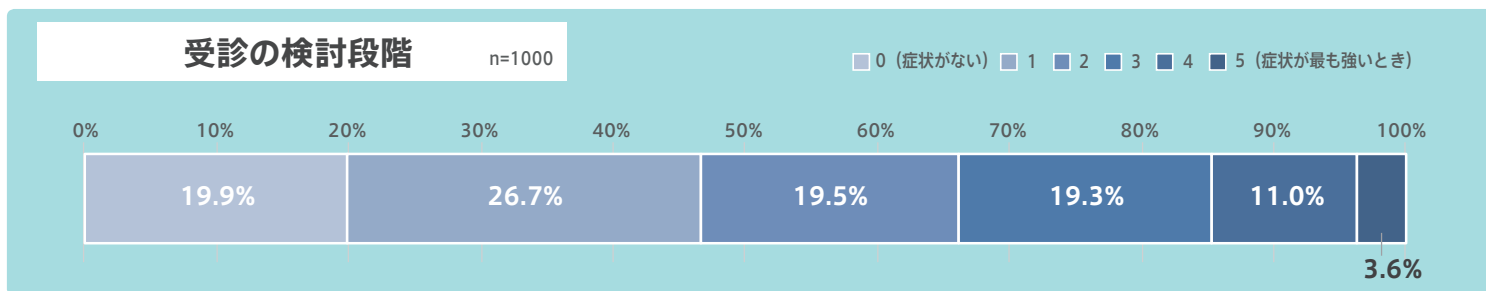
全国12地域ブロック別 2016年花粉飛散開始日&花粉症患者受療実態

	北海道	東北北部	東北南部	関東北部	関東南部	甲信
飛散開始日 	3/18	3/5	2/21	2/10	1/19	2/14
患者の半数以上 受診完了 	4月上旬	3月中旬	2月下旬	2月上旬	2月上旬	2月上旬
	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
飛散開始日 	2/18	2/13	2/13	2/8	2/3	2/10
患者の半数以上 受診完了 	2月中旬	2月上旬	2月中旬	2月上旬	2月上旬	2月上旬

飛散開始日については、環境省「平成28年春のスギ・ヒノキ花粉の飛散状況及び終息時期について」(<http://www.env.go.jp/press/102412.html>) をもとに QLifePro編集部で作成

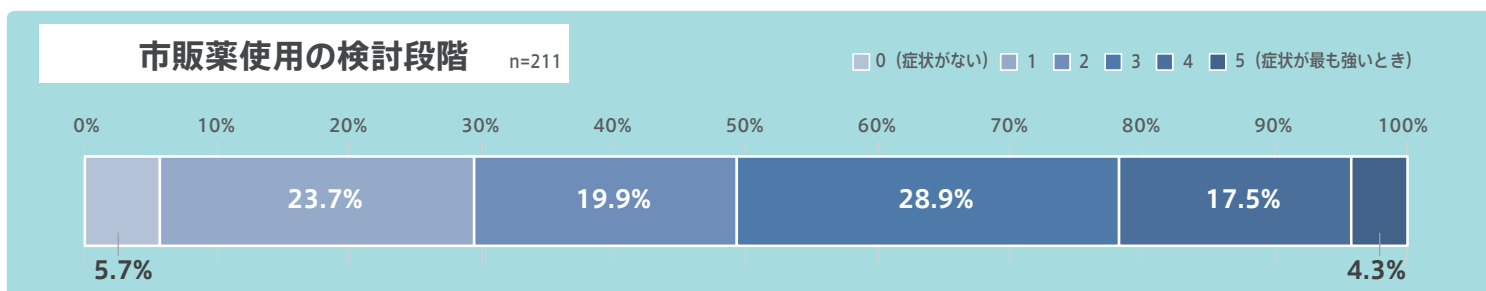
シーズン最初の受診時、半数以上がすでに“中等度”以上

では、花粉症患者はどの段階で医療機関の受診を検討するのだろうか。症状がないときを「0」、最も強いとき（ピーク）を「5」とした場合、「0」が19.9%と初期療法の重要性について認識している人がいるものの、「2」（19.5%）、「3」（19.3%）、「4」（11.0%）、「5」（3.6%）を合わせると“中等度”以上が半数を超えており、シーズン最初の医療機関受診時にはすでに症状を発症している人が多いことがうかがえた。

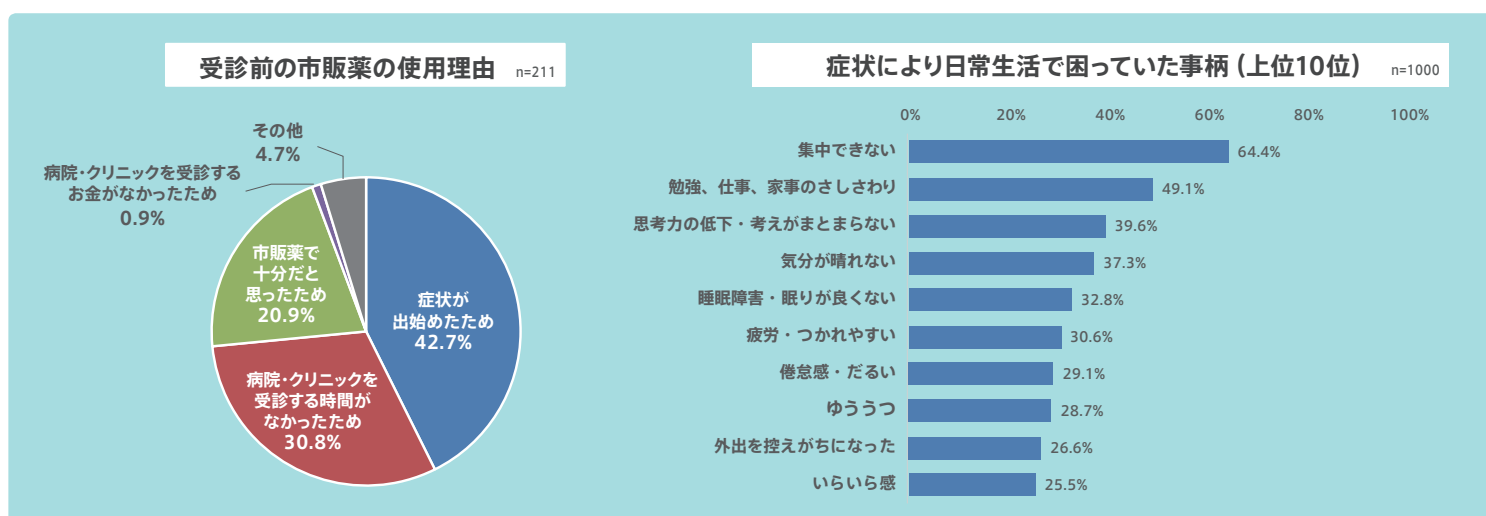


受診前の市販薬使用、「症状が出始めた」「時間がなかった」を理由に

シリーズ第1回では医療機関受診後も約1割が市販薬を使用していることを紹介したが、2016年春シーズンの初回受診前に市販薬を使用した211人に対して、市販薬使用を検討するのはどの段階かを調査したところ、症状がまったくないときを「0」、最も強いとき（ピーク）を「5」とした場合、全回答の平均指数は2.42だった。「2」（19.9%）、「3」（28.9%）、「4」（17.5%）、「5」（4.3%）を合わせると7割を超えており、医療機関の受診と比べて、比較的症状が重くなってから市販薬使用を検討する人が多かった。



花粉症症状のために日常生活で困っていた事柄として、最多の64.4%が「集中できない」、49.1%が「勉強、仕事、家事のさしさわり」と回答したほか、思考力の低下や睡眠障害、疲労を挙げる人も3~4割に上っている。これらを何とかしたいと考えるものの、受診する前に症状が出始めたり、時間がなかったりするなどの理由で受診できず、まずは市販薬で対応していることがうかがえる結果だった。



【調査概要】

(1) 調査対象:

- ・花粉症の治療を目的に2016年春の花粉症シーズンに1回以上医療機関を受診した患者500名
- ・通年性アレルギー性鼻炎患者ならびに患者予備群（自覚症状あり）で花粉症も合併しており、2016年春の花粉症シーズンに1回以上医療機関を受診した患者500名

(2) 有効回収数: 1000名 (3) 調査方法: インターネット調査 (4) 調査時期: 2016/12/7 ~ 2016/12/13

詳細な調査報告書は http://www.qlife.co.jp/news/170113qlife_research.pdf から